



リベラル群馬、次年度に向けた政策提言を行う。

街頭演説
3400日



会派代表質問に登壇。
山本知事初の予算編成に対し、
是々非々の姿勢で臨む。

群馬県議会リベラル群馬

後藤かつみ

2020年 第1回定例会報告

CONTENTS

- I 政策転換を巡り熱論50分 会派代表質問
- II 看板施策は成果指標を明確に
- III 「要望」から「提言」へ リベラル群馬政策提言

発行 リベラル群馬 後藤かつみ事務所
住所 高崎市八幡町 800-24
TEL&FAX 027-343-1393
e-mail ccrgoto@af.wakwak.com

<http://www.ccrgoto.com/>
<http://www.eaglesgoto.com/>
(スマートフォン用)

政策転換を巡り熱論50分 会派代表質問

歳出において大きなウェイトを占める公共事業費。後藤は従来から、公共事業の「総額」以上に重要なのが「優先順位」であると提言してきました。

公共事業の優先順位に切り込む

財政健全化 昨年度予算との比較	
普通県債の発行額	709億円 ⇒ 545億円
プライマリーバランス	102億円赤字 ⇒ 40億円黒字
財政調整基金残高(年度当初)	15億円 ⇒ 52億円
道路などの公共事業費	874億円 ⇒ 806億円

第1回定例会は、新年度予算を審議する最も重要な議会のため、会期2日目に会派代表質問が行われます。
後藤は、リベラル群馬を代表して登壇し、政策転換を強力に進める山本知事と建設的に議論を戦わせました。

山本県政の最大の試金石であり、知事の掲げる「持続可能な行政運営」のために避けて通れないのが財政健全化です。
次年度予算編成における知事の手腕が注目されましたが、財政の主要指標は軒並み改善し、まずは及第点と言える結果を出せたと言えます。

しかも、公共事業や業界団体が要望する補助事業など「削りにくい」事業について例外なく効果を検証し、果敢にメスを入れたことは大いに評価できます。

後藤は、知事の手腕を率直に評価しつつも、悪化の著しかった前年度予算と比べて好転したに過ぎないことから、一層の健全化が可能であると指摘。知事も「まだ事業を見直せる余地はある」と応じ、更なる健全化に意欲を示しました。

財政健全化へ大きな一歩

代表質問で後藤は、税収が伸びず、公共事業が経済成長を生まない時代を迎えたいま、大型幹線道路を新設するよりも、防災対策や交差点改良、危険な歩道の改良など、既存のインフラを「守り、磨く」事業に優先順位を変えらるべきであると提言。

山本知事は、「防災対策を最優先に行いつつ、財政健全化とのバランスを考慮して公共事業全体を見直していく」と答弁。その後示された公共事業の基本計画である「県土整備プラン」の原案では、前知事の看板施策だった大型幹線道路整備はなりを潜め、防災対策や維持管理の優先度を高めるなど、本格的なメスを入れる意欲を示す内容となっています。

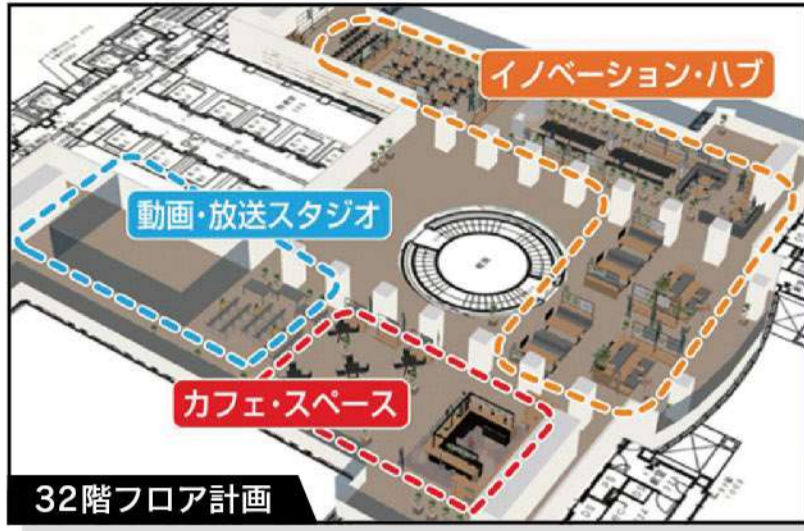
公共交通活性化策の停滞を懸念

一方、むしろ施策を拡充すべき公共事業は「公共交通」であると後藤はかねから主張してきました。R2年度予算では、乗換案内に加え、バスが今どこを走っているかの位置情報もスマートフォン上で見られるシステムづくりも予算化され、最も身近であるべきバス路線の利便性の一層向上が期待されます。

しかし、一方で高崎と館林間を結ぶBR T(バス高速輸送システム)事業の凍結や、鉄道駅等のパークアンドライド駐車場整備などのハード事業予算が軒並み減額されるなど、ようやく途に就いた活性化策が停滞する懸念は否めません。



全国の公共交通とまちづくり政策を研究し、提言を続けています。



看板施策は成果指標を明確に

これまで展望ホールだった県庁32階の再整備(左図) 3億2千万円

山本知事就任以降、県庁32階に動画スタジオやカフェスペースなどを整備(総額3億2千万円)、また群馬県のゆるキャラ「ぐんまちゃん」のブランド力強化(1億2千万円)など、矢継ぎ早に「山本色」全開の施策を予算化しています。

本県の「弱み」である発信力不足を改善し、また本県独自の資源を活用しようという発想そのものは理解できます。しかし、これだけ巨額の予算をかけることには多くの批判が寄せられていることも事実です。

後藤は代表質問において、県民理解を得るためには成果で示すしかないという指摘。知事も「近々に分かりやすい成果指標を示したい」と応じました。

今後、知事の施策を「パフォーマンス」に終わらせられないよう、会派の枠を超えて厳しくチェックしていけるか。二元代表制の一翼を担う議会の真価が厳しく問われることとなります。

パフォーマンス先行型に對峙
問われる議会のチェック機能

ぐんまちゃんのブランド力強化(アニメーション動画の製作など) 1億2千万円



「要望」から「提言」へ リベラル群馬政策提言



- ### リベラル群馬政策提言の骨子
- 1 持続可能な群馬づくり**
財政・山村地域・環境・社会保障などの「持続可能性」を県政運営の軸に。
 - 2 公共投資の未来志向的転換**
従来型の公共事業中心から、自然エネルギー、観光など新成長分野へ積極投資。
 - 3 「人」中心の社会・経済づくり**
教育や働き方改革等を通じて「人材」を育み、力を発揮できる仕組みづくり。
 - 4 弱者・マイノリティに優しい県政**
障がい者や貧困層などの社会的弱者、LGBTなどの社会的マイノリティに優しく寄り添う県政。

県議会の傾向として、どうしても個別の施策や事業を要望する場になりがちですが、本来はもっと大局から県政の方向性を提言する存在であるべきと後藤は考えます。

後藤が、財政健全化や山村地域、公共交通の再生などの施策にこだわってきたのは、県政の方向性を「成長・拡大」から「持続可能性」へと転換すべきという理念からです。

毎年行うリベラル群馬の政策提言も一方的な要望という姿勢でなく、常に「仮に自分が知事になったら」という想定をしながら責任のある提言を行っています。

トピックス 「ぐんま乗換コンシェルジュ」を活用しよう!

観光モデルコースや「ぐんま元気アプリ」と連動して、散策コースも紹介。



鉄道だけでなく、バス路線の乗り換え検索ができる画期的なアプリを開発。



県民に最も身近のようで身近でない「路線バス」の利便性を向上させる施策が本格化しています。

後藤は、長野県の施策から学び、乗りたいバスが「いつ、どこで乗れば良いのか?」をスマホで検索できる仕組みを提案。その後、県が開発したのが「ぐんま乗換コンシェルジュ」です。

バスの乗換情報を手軽に検索できる機能に加え、更に「バスがどこを走っているのか?」を見ることが出来る「バスロケーションシステム」機能を追加する予定になっています。

無料でダウンロードできますので、バスの利用促進に是非活用ください。